

平成27年  
10月号

桂台地域ケアプラザ

# 地域交流プログラム

発行日 / 平成27年10月1日  
編集・発行 / 横浜市桂台地域ケアプラザ  
発行責任者 / 石塚 淳

お問い合わせ先

地域交流部門 897-1111

HPアドレス

<http://www.katuradai.com>

桂台 支えあい連絡会

検索

SHK・視点論点??? そうです、お気づきの方も多い事と思いますが、もちろんNHK・視点論点のもじりです。その心は、S=栄区・H=本郷中央地区・K=上郷西地区の視点論点であります。

先日、栄区から第3期さかえ・つながるプラン(案)策定に向けてという資料が配布され、急いで話し合いを行わなければいけない状況になりましたが、急がば回れということわざどおり、丁寧に地域の方の声を聞いていくことが大事と考え、緊急企画として今回「第1回SHK・視点論点」を開催しました。すでに本郷中央地区、上郷西地区ともに地区別計画については骨格ができるくらい話し合っておりますが、どうしても若い世代の参加者が少ないということが共通課題になっています。今回は、40代、50代の地域活動者6人にお集まりいただき、率直なご意見を伺いました。次世代の方々の関心事とご意見がうかがえる貴重な会となりましたので、ぜひ皆さまも2.3面をお読みいただき、ご意見などあれば桂台ケアプラザまでお寄せください。

## 10月の おしらせ

### ◆備えてあんしん終活講座◆ 第2回「老後のお金の使い方」

安心した老後を迎えるために、資産管理に関して早めに準備しておくことはとても重要です。税理士であり、司法書士でもある村田由美子先生に、老後の資産管理に関して「やるべきこと・やってもいいこと・やってはいけないこと」をご講義いただきます。ぜひ、ご参加ください。

日時：11月22日(日) 13:00~15:00 場所：桂台地域ケアプラザ 多目的ホール  
連絡先：☎897-1111 (11月20日 締め切り) ※定員30名

### ◆親子のふれあいタイム◆

～親子で楽しくリトミック～

リズムカルな動きは、お子さんの心身と感性を育てます。いっしょに、気持ちのよい汗をかいて、育児ストレスを解消しましょう。ママのエアロビタイムもありますよ～。

日時：11月9日(月) 11:00~12:00

講師：菅原 亜紀さん 参加費：100円

対象：未就園児と保護者 20組 (定員次第締切)

場所：桂台地域ケアプラザ 2F多目的ホール

申込み：桂台地域ケアプラザ ☎ 897-1111

### ◆(得!)わくわく子育て講座◆

～簡単・美味しい“おやつ”を親子でクッキング～

(共催：にこりんく、栄区役所、桂台地域ケアプラザ)

保育園で人気のおやつメニューを教えていただきます。優しいママの手づくりで“食べること”がいっそう楽しく♪

日時：11月24日(火) 13:30~15:30

講師：桂台保育園 調理師 荻野さん 参加費：200円(材料費)

対象：未就学児と保護者 20組 (定員次第締切)

場所：桂台地域ケアプラザ 2F多目的ホールと調理室

申込み：桂台地域ケアプラザ ☎ 897-1111 にこりんく ☎898-1615

### ◆ポールウォーキング 体験会実施中◆

今話題のウォーキングスタイル、ポールウォーキングの体験会を行っています。短時間で運動効率があがり、足腰がちょっと……という方にもおすすめです。興味のある方、お気軽に参加してみませんか?

日時：毎月第3金曜日 9:30~(1時間程度)

集合：桂台地域ケアプラザ 受付前

問合せ：桂台地域ケアプラザ

☎ 897-1111(担当：佐川)

※天候等によって中止する場合があります。



### ◆ふくろうカフェの贈るみんなのセミナー◆

「心も身体も食べたものでできている」

(主催：ふくろうカフェ 共催：本郷中央地区社会福祉協議会  
上郷西地区社会福祉協議会 桂台地域ケアプラザ)

いつまでも元気に暮らすための源は“食”です。健康で安心な食事について、興味深いお話を伺います。

日時：11月13日(金) 14:00~16:00

講師：フードアナリスト1級(社)日本フードアナリスト協会認定講師 若尾 洋祐氏

参加費：300円(美味しいコーヒー付き)

場所：桂台地域ケアプラザ 2F多目的ホール

申込み：桂台地域ケアプラザ ☎ 897-1111

# 緊急企画「第1回SHK・視点論点」を開催 ～次世代の声を聴く～

1面のリード文でもご紹介したようにSHK視点論点は栄区・本郷中央地区・上郷西地区の視点論点のことを指しますが、その内容は、さかえ・つながるプラン(案)で示されたものに基づいています。その論点を皆さまがどう捉え、解決をするための取り組みに結び付けていこうとするのかを探っていこうという試みがSHK視点論点の趣旨です。そもそも、主な論点が地域の論点となりえるのかという事も含めて考えていきます。第1回目は、「論点2 安心感のある子ども子育てができる地域コミュニティとは」に焦点をあて、自由な話し合いを行いました。

## 論点2 安心感のある子ども子育てができる地域コミュニティとは

核家族化、多様なライフスタイルの中、子どもを安心して産み育てる環境づくりが大切です。そのためには、保育・教育基盤の充実とともに、地域コミュニティの果たす役割は大きく、養育環境の面で様々な課題を抱えた家族への見守り、サポートなど、身近な地域コミュニティによる支援をどう構築していけばよいでしょうか。

この文面では、地域で考えるポイントとして、**養育環境の面で様々な課題を抱えた家族への見守り、サポートなどの身近な地域コミュニティによる支援**という部分が浮かび上がります。さて、この座談会はそこまでたどり着くのでしょうか？

ディスカッションが始まると、「子育て支援」という言葉にまず引っかかりがありました。「子育て支援」というと、どうしても子育てをしている親に焦点が当たってしましますが、「子ども」を真ん中においた支援「子ども支援」が本当ではないのか、という意見です。一例としてサロンを利用した親のアンケートの中に、子どもの視点からではなく、親の視点から書かれているもの（親自身の気持ちがいやされたなど）が増えていることがあげられました。それは何か違うのでは？という疑問が呈されながらも、一方、親が孤立することで問題の根が深くなってしまおうという意見も出されました。結論として、地域の中で子育てについて気軽に話し合える場所や父親の協力（お母さんの子育てに関する愚痴を聴く事も大事な協力）が大切な事を改めて確認されました。

また、子育てサロンのような場所を継続するためには、地域の支えが必要という意見が出されました。最近では、子ども会もどんどん減る傾向にあり、自治会などから場所の提供、資金の援助を受けて、ようやく行っているサロンが多い状況です。一つの意見として「これまでの行事を踏襲するのではなく、新しい発想で子どものために大人がやれる事を考えたい」という事がありました。最近では上郷西地区から始まったハロウィンが飛び火して桂台地区にも広がっているそうです。子どもと若い世代が少なくなっている地区では、地域を越えた仕掛けのづくり方も重要なのではないかと示唆がありました。

もう一つの課題は、担い手の問題です。身近な地域での支援の取り組みの一つには、隣近所の見守りの他に、サロンや子ども会、PTAの存在がありますが、なかなか役員のなり手がいないという課題です。サロンの運営などを含めた地域役員やPTA役員を言葉にすると、パパを引くイメージが定着している、というご意見もありました。役員を決めることにいつも難航し、子どもがくじを引いて決めるという実例

もあったそうです。実際に活動してみると、交流は広がり、自分自身の成長にもつながり、得るものが多いのに残念だ、というのが共通したご意見でした。負担感が先だってしまうことを払拭するためには、楽しさを前面に出したり、その時だけでも参加できるような企画が良いのではという意見もありました。

座談会は、約束の時間をオーバーし白熱しました。参加者のおひとりお一人が胸に秘めていた課題がある事がわかりました。きれい事ばかり言って理想に終わらせたらいけないのでは？一足飛びに行かなくても、何かできる事はないだろうか。そんな雰囲気では時間切れとなりました。

## 座談会を終えて

会に先立ち、これまでの地域福祉保健計画の進捗についてお話をしましたが、そこで感じた事は、新しい担い手世代の方たちに地域福祉保健計画の取り組みについて情報が行き渡っていないという事実でした。実際問題として、今の地域福祉保健計画策定には現役世代の方がほとんどメンバーに入っていないという事からも、当然想定されることではありましたが、特に地域に関心の高い方たちにさえ情報が伝わっていないという事を突きつけられると、その事をしっかりと見据え、反省しなければならないと思いました。

一方、皆さんの意見を聞いていると「目的を持って、自発的に、良い仲間と行う活動は楽しいよ」という声が浮かんできます。今、子育てで悩んでいる方たちも、子育てをきっかけに良い仲間ができ、子どもの成長とともに、地域での大事な横のつながりもできるよという物語も見えてきます。10年、20年後に確実に自分の人生を豊かなものにする事につながることでしょう。そう云い切れるのは、実際にこの地域で活動しているシニアの活動者のお一人おひとりと付き合い充分に実証されている事を実感するからです。

今回の参加者は、まさにそのような未来を支える方たちでした。会の別れ際には、地域を越え、一緒にアクションを起こせないかという雰囲気まで出てきました。まずは、現役世代の方たちが自由に語りあえ、出会える場の提供こそが第一歩と感じました。

最後に、今回、座談会に参加していただいたメンバーを紹介します。

<宮内 仁志氏> 上郷西地区では、子どもからお年寄りまで知っているパフォーマー(お猿)。地域に出ようと思った=連合町内会の運動会でひとり応援団長開始。予想外の反響で、地域のお祭りやキラキラフェスタでは欠かせない存在になる。上郷小学校PTA会長2年歴任。次期、青少年指導員。

<館岡 洋一氏> 子どもたちが早く地域に慣れるように、転居した時、自ら率先して町内会活動に参加しようと思った子煩悩パパ。栄区の生涯学習事業で、父と子のふれあいイベントなど企画する。同世代の父親との地域活動を楽しみにしている。実は潜水士。

<藤井 俊介氏> 小3から高3まで栄区で過ごし、子育てにはよい環境と思い、桂台に居を構える。人と関わるのが好きでいろんな集まりに顔を出しているうちに、自治会活動に参加。子育て世代に魅力的な自治会活動、災害に強い町づくりに取り組む。横浜防災ライセンス指導員。湘南桂台次世代委員会委員長。

<山本 和也氏> 桂台中学校の第一期生。尼崎で阪神淡路大震災に遭い、給水車に並んだ経験がある。趣味の無線を活かし、横浜市アマチュア無線非常通信協力会に所属。現、桂台中学校運営協議会会長。

<八木 恵美子氏> 顔の広さは、NO1。期せずして、唯一全員と知り合い。PTAの役員、子ども会の役員を継続して行っている。こんなに楽しいのに、みんな役員になりたがらないのが悩み。八木さんを見ていると役員になっても良いと思う。(みんなの感想)

<幡出 美和氏> サロンの必要性を感じていた現スタッフたちとの想いを原動力にして、子育てサロン「ばんばんばんだ」を桂公田町に立ち上げる。一番大切な乳幼児期に親子が一緒に過ごせる環境が乏しい現状を変える施策が子育て支援の根本では？と考える、元気で優しい4児のママ。



# 行ってきました! 東京消防庁本所防災館

～イザという時の心備えを!～

珍しく晴れ間がのぞいた9月5日(土)、本郷中央地区支えあい連絡会が主催する防災施設見学会が開催されました。

本郷中央地区の13自治会から42名の方々が参加し、スカイツリーのお膝元、墨田区にある本所防災館へ出発しました。



ここは、自然災害の脅威を体験できるとともにインストラクターの説明をうけながらしっかり防災学習ができる施設です。特に、本物さながらの震度7の揺れや風速30mの暴風雨体験は圧巻でした。さらに都市型水害コーナーでは、地下のドアや自動車が浸水して水圧がかかっている扉の開放体験を行いました。参加者からは、地域の防災訓練では何年来体験の機会を逃していた、消火器の使い方をしっかりと体験でき、大変役に立ったとのお声もありました。

近年、日本列島は異常気象による集中豪雨、それに伴う土砂災害、海水の温度の上昇に起因するスーパー台風、火山の噴火など、地震のみならず多くの自然災害が多発しています。

防災館付近は東京湾の平均海面より低いエリアで、荒川と江戸川に囲まれた3区(墨田・江戸川・江東)は水害の危険性が高い地帯です。後日発生した関東・東北豪雨のような大洪水となれば甚大な被害が与えるのは想像に難くないでしょう。巨大災害への東京都の災害対策が急ピッチですすめられようとしています。

私たちの本郷中央地区でも今回の台風17号・18号による大雨では、土砂災害の危険がある地区には避難勧告が発令されました(9月9日～10日)。恐ろしい自然災害はいつどこに来るかわかりません。防災意識を高め、日頃の備えをしっかりと、そしてもしもの時の防災行動力を身につけることが急務であることを痛感せずにはられません。皆さんも大切な家族や仲間とぜひ一度防災の心構えを学びに訪れてはいかがでしょうか。



暴風雨体験コーナー



震度7の揺れを体験



水圧で開閉困難なドア



本所防災館

東京都墨田区横川4丁目6-6

☎03-3621-0119